



…さまざまな文化活動を紹介するページ

ぐんま彫好会

芸術の秋です。絵画や写真のサークルは多いけれど、彫刻のサークルはあまり聞きません。群馬でも二つしかないという彫刻のサークルのひとつを、活動場所の高崎市中央公民館に訪ねました。

ぐんま彫好会は…岩田会長さんに聞く

1986年に始まりましたから、もう25年になりますね。きっかけは、公民館主催の「粘土彫塑教室」です。そこで一つの作品を仕上げました。その後、公民館の方から、サークルにしませんかという提案があつて、有志のサークルができました。そして「ぐんま彫好会」という名前をつけました。

はじめは7～8人ぐらいでしたかね。今は14～15人のメンバーがいます。毎週土曜日の午前中、この中央公民館の教室で活動しています。大体3ヶ月かけて一人のモデルさんを対象にそれぞれの作品を創っています。メンバーのほとんどが、専門の美術教育を受けたことがなくて、趣味として何かやりたいと集まってきた人たちなんです。最年長は88歳の原菊太郎さん。船員をリタイアされてから研鑽を積まれて、県展で知事賞まで受賞され、県展の会員になりました。

節目節目には、10周年、15周年、25周年と、展覧会をやってきました。

彫刻の魅力語る

★ 私は、絵もやっていたのですが、絵よりおもしろくなってきましたね。粘土の塊から形が生まれる…絵は平面ですからね。それも模刻ではおもしろくない。生きたモデルさんを相手にして創りますから、毎回新鮮であき

ない。同じモデルでも、皆、それぞれ違う作品になる。そういう創り手にとっての魅力がありますね。(岩田實之さん)



★ 私は現役時代は日本郵船という会社で働いていました。主に外国航路の貨物船に乗っていて、ヨーロッパにも行ったわけですが、美術館とか彫刻に接する機会は全くなかったのです。彫刻を始めたのは、彫好会が始まった次の年に公民館に行って以来です。絵はだめだけど、彫刻はなんとかはじめから形になったのです。おもしろいと思いましたね。はじめは顔だけ、次に半身大、やがて全身に挑戦して…創造の喜びといえますか、創っていくのが楽しみですね。(原菊太郎さん)

★ 私は、立体から見た平面をつかみたいと思って参加し始めました。絵は向こう側はみえないでしょ。彫刻では、いろんな角度から見て、不自然のないバランスをつくっていく、そのおもしろさがあります。会員のみなさん

は、彫好会以外の場で粘土や木彫だったり、石彫だったり、それぞれの作品も手がけています。彫刻は、こつこつやっっていく積み重ねで地味な作業です。その創作の過程からくるのか、元々の性格からなののでしょうか、彫刻をやっている人は、素朴であったかい人が多い気がします。



「よくみなさい」…指導者・吉田光正さん

一ぐんま彫好会を指導されているのは、群馬の彫刻界のリーダーである吉田光正さん（70歳）。わがフォーラムの会員でもあります。いただいた名刺には作品の写真がずらり印刷されています。高崎音楽センター前広場の『喜び』をはじめ、命の躍動、群馬の烈風に向かう母と子のモチーフが印象的です。

「高崎の公民館で教室を始めたのは、群馬に彫刻教室がないので、その普及をかねてやりたいというのがねらいでした。全くの素人でも、10年かけて美術大で学んだぐらいの力をつけたいとモデルに実際にきてもらいました。

私は、技術的なことよりも、まず『よく見なさい』と言います。見えているようでいて見えないのです。でも、耳はこうだとか、具体的に観察して作品として生かす過程、創作をくりかえすうちにしっかり見えるようになる。観察がすべてです。モデル（人間）を

観察し、作者とモデルとのやりとりを通して、基本的なことを身につける。それがこの会の目的の第一です。そういう中から、原菊太郎さんのような方が出てきたのは嬉しいです。

第二に、彫刻とはなにかを知ってもらうこと。そのためには、いい作品をいっぱいみるように勧めています。よく旅行もやります。日本は彫刻に触れるチャンスが少ない。ヨーロッパでは、見える所のあちこちに彫刻があって、子どものうちから自然に身につきます。日本は学校教育でも、絵画に比べて場所なども大変だから、彫刻を創るチャンスが少ない。

彫刻は、触覚の芸術です。やってみるとおもしろい。どんどん上手になります。成長する喜びがありますから、長く続いているのでしょう。絵が上手じゃなくても彫刻はうまくできる、違う味わいを発揮できるんですね。私も、一人ひとりの個性を伸ばしていい作品にするよう、心がけています。



会員を指導する吉田光正さん(左端)

最後にこれからの夢は生涯学習ですね。リタイアしてやることがないという人がいますが、これからは多くの人になにかやる目標を身につけてほしい。原さんのように」。

(吉田さん談)

【彫好会へのお問い合わせ】

吉田光正さん ☎ 0274-22-4383

原菊太郎さん初めての個展<米寿記念>
『小さな美術館ファインアートカズ』
12月3～8日(北高崎駅の北側)にて